

ローラーもみすり器の使い方

測定手順1

ローラーもみすり器のフタを開けて、もみを入れてください。



測定手順2

フタをきちんと閉めてください。



測定手順3

ハンドルを回してください。
もみがローラーを通過したら、もみすり器を逆さまにして、再度ハンドルを回してください。
その作業を何度か繰り返してください。



測定手順4

フタを開けて皿に試料を移して、付属のピンセットで玄米を取って使用してください。(お皿は別売りです。)



注意事項

! 本器を正しくご使用していただくために、以下のことを守ってください。

- ・この商品は米麦の水分値をはかるためのものです。それ以外のご使用はしないでください。
 - ・ご使用前には必ず取扱説明書、及び本書をお読みにになり、大切に保管してください。
 - ・分解、改造をしますと故障の原因となりますので、絶対にしないでください。
 - ・本器は精密にできていますので落下させたり、衝撃を与えないよう注意してください。
 - ・直射日光のあたる場所や熱器具の近くでの使用はやめてください。正しい測定ができないだけでなく、ケースの変形や故障の原因となります。
 - ・電氣的ノイズが発生する環境でご使用しますと、表示が不安定になったり、誤差が大きくなる場合があります。
 - ・標準空気組成(一般大気)以外でのご使用は絶対にしないでください。
 - ・本体は防水構造ではありませんので絶対に濡らさないでください。
 - ・測定範囲外でのご使用は本体の故障の原因となります。
 - ・長時間使用しない場合は、必ず乾電池を取りはずしてください。乾電池を入れたままにしておきますと乾電池から液漏れする場合があります、故障の原因となります。
 - ・不要になった乾電池は火中に投入しないでください。
 - ・乾電池は幼児の手の届かないところに保管してください。万一飲み込んだ場合には直ちに医師に相談してください。
 - ・環境保全のため使用済み乾電池はそれぞれの市町村の条例に基づいて処理するようにお願いします。
 - ・本器をアルコール、シンナー、その他溶剤などで洗ったり、拭いたりしないでください。汚れた場合は、中性洗剤を溶かしたぬるま湯にガーゼなどを浸し、よく絞ってから拭いてください。
- ※修理、校正はお買いあげ店にお申し付けください。

- ・付属の電池はモニター用のため、電池寿命が規定より短いことがあります。
- ・万一製造上の不備がありました場合は、新しい商品とお取替えいたします。それ以外の買はご容赦願います。
- ・本製品はその測定結果、及びその利用による結果を保証するものではありません。

デジタル 米麦水分測定器の使い方

※玄米を用いた

測定準備

測定するための試料(もみ・玄米等)と水分測定器を用意します。

付属のブラシを使って、測定部の中・試料皿の裏表を掃除します。



測定手順1

(重要) 測定したい試料と測定器の温度を同じにする。



1. 乾燥中のもみは温度が高くなっていますので、冷ましてください。
2. 測定器ともみを同じ場所に置き、ほぼ同じ温度にならしてから測定を開始してください。(約1時間)

測定手順2

試料皿に付属のスプーンで一粒並べにします。

良い例



試料皿の中には未熟米、死米を入れないでください。混入した場合は、付属のピンセットで取り除き、整粒を補充してください。

悪い例



測定手順3

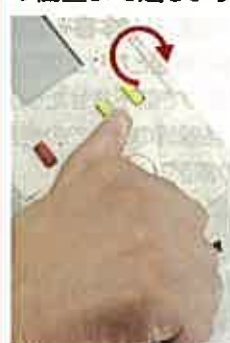
測定器のハンドルを緩める方(反時計まわり)に廻し、試料皿が測定部の奥まで入るようにします。



試料を入れた試料皿を測定部の奥まで入れます。
※玄米以外の試料の場合、先に測定ボタンで電源を入れ、選択ボタンで試料を選択してください。

測定手順4

測定器のハンドルを締める方(時計まわり)に廻し、これ以上回らない場所(ストッパー)の位置まで廻します。



試料を潰しますので、ハンドルがきつく感じられます。必ずストッパーまで廻してください。

測定手順5

測定ボタン(赤色)を押す。
測定値が表示されます。



測定手順6

ハンドルを緩め、試料皿を測定部から抜き、潰された試料を捨てる。

測定後は各部を掃除し、必ず試料は捨ててください。連続して測定する場合は、手順①～⑥を繰り返してください。



※注意※

もみでの測定は形状の関係で誤差が生じやすくなりますので最終確認は玄米にしてから測定してください。